認定調査票の記入のポイント【第10回】

第10回は「過去14日間にうけた特別な医療について（有無）」「調査対象者の日常生活自立度」についてご案内いたします。問題から正しい選択肢を選んでみましょう。

問題【レスピレーター（人工呼吸器）】

睡眠時無呼吸症候群の治療のため、夜間はCPAP療法を行っている。自己管理しており、14日以内に看護師による管理は行われていない。

ない ある

回答【レスピレーター（人工呼吸器）】 ない

<解説>

「特別な医療」とは、医師、または、医師の指示に基づき看護師等によって実施される医療行為に限定される。継続して実施されているものを対象とし、急性期の治療目的とした医療行為は含まない。調査時点で、処置が終了・完治している場合は、過去14日間に処置をしていても、継続して行われていないため該当しない。

問題【疼痛の看護】

腰痛、関節痛等に対する痛み止めの注射が、医師によって行われている。

ない ある

回答【疼痛の看護】 ない

<解説>

がん末期の疼痛コントロールに相当するひどい痛みに対して、鎮痛薬の点滴、硬膜外持続注入、座薬、貼付型経皮吸収剤、注射が行われている場合に該当する。痛み止めの内服治療、一般的な腰痛・関節痛などの痛み止めの注射、湿布等も該当しない。

【7群 日常生活自立度】

● 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）

判定に際しては「～することができる」といった「能力」の評価ではなく「状態」、特に『移動』に状態像に着目して、評価するもの。

● 認知症高齢者の日常生活自立度

高齢者の認知症の程度を踏まえた日常生活自立度の程度を評価するもの。まったく認知症を有しない者については、「自立」となる。

- ・「認知症高齢者の日常生活自立度」ランクⅢについて、認知症により日常生活に支障をきたすような症状・行動（着替え、食事、排泄ができない等）や意思疎通の困難さ（徘徊、失禁、大声をあげる等）がある場合に該当する。
- ・「日常生活自立度」の選択根拠を特記事項に記載することで、審査会委員にも伝わりやすい調査票となる。

【認定調査票の記入について】

① 調査票を提出する前には最終確認する

調査票には個人が特定される情報（年齢、生年月日、地名、施設名、病院名等）を記入していないか、誤字・脱字、チェック漏れがないか確認する。

② 「介助の内容」、「手間」、「頻度」を記載する

介助の方法について評価する項目では、介助の内容によって選択肢が異なるため、具体的な介助の内容を特記事項に記載する。

- × 「自分で洗身を行うが不十分であり、妻が介助している。」
- 「自分で洗身を行うが不十分であり、手の届かない部分のみ妻が洗身を行う。」
- 「自分で洗身を行うが不十分であり、妻が全て洗いなおしをしている。」

③ 同じ内容の特記事項があればまとめる

- ・同じ群の中で、同様の特記内容があればまとめることができる。項目名で同様と記載する。

例) ○ 排尿同様、精神・行動障害の項目同様 × 2-5 同様、205 同様

※群をまたいで同様としない。(例：3群の特記に4群の特記を同様と書かないこと)

- ・特記事項が多いと機械で読み取れないため、特記事項は48個以内におさめる。